

第5回在宅医療推進フォーラムに参加して

ながおさしゅういちろう
永長周一郎

東京都リハビリテーション病院診療部歯科
〒131-0034
東京都墨田区堤通 2-14-1
全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会
代表世話人 (IT・コミュニケーション局)

2009年11月5日、全国在宅療養支援診療所・連絡会に呼応する形で、全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会 (代表世話人：足立了平、永長周一郎、原 龍馬、<http://e-shika.org/>) が設立され、設立記念式典・講演会が市ヶ谷の歯科医師会館で開催された。さらに同月22日には第1回総会を茗荷谷の全林野会館で開催したが、このたび、在宅医療を推進する学会・団体等が加入する「在宅医療推進フォーラム」に新加入団体として参加した。ここでは、本連絡会の設立経緯とともに、在宅医療推進フォーラムの様態を報告する。

■全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会の設立経緯

高齢社会における歯科医療は、利用者だけでなく、そこにかかわる保健・医療・福祉などの専門職種からの期待に応えることが必要である。在宅医療にかかわる方々からは、口腔ケアの普及・推進や、食の支援に対する強い期待が寄せられている。今、私たちに求められている在宅歯科医療とは、在宅における「口腔ケア」「摂食・嚥下リハビリテーション」そのものなのである。

一方、普及・推進のためには、在宅歯科医療にかかわるあらゆる職種が集い、情報を自由に共有することで、課題解決に取り組むことができ

新加入団体紹介の際に登壇した原 龍馬代表世話人と
11団体で宣言された「在宅医療推進のための共同声明」



在宅医療推進のための共同声明

1. 市民とともに、地域に根ざしたコミュニティケアを実践する。
2. 医療の原点を見据え、本来あるべき生活と人間の尊厳を大切に医療を目指す。
3. 医療・福祉・介護専門職の協力と連携によるチームケアを追求する。
4. 病院から在宅へ、切れ目のない医療提供体制を構築する。
5. 療養者や家族の人生により添うことのできるスキルとマインドをもった、在宅医療を支える専門職を積極的に養成する。
6. 日本に在宅医療を普及させるために協力する。
7. 毎年11月23日を「在宅医療の日」とし、在宅医療をさらに推進するためのフォーラムを開催する。

るコミュニティとしてのオープンプラットフォームが必要と考えられた。そこで、在宅歯科医療の主たる担い手である歯科診療所、後方支援としての役割を持つ病院歯科 (歯科口腔外科)、教育機関の有志を中心に発起人123名で設立したのが全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会である。

■在宅医療推進フォーラム

在宅医療推進フォーラムとは、(財)在宅医療助成勇美記念財団の主催で開始された在宅医療を推進する団体、個人、行政が集う市民参加型のフォーラムで、今回で5回目となる。現在は国立長寿医療センターと勇美記念財団両者の主催となり、在宅医療推進会議の作業部会でもある。

その第5回フォーラムは、11月23日、東京ステーションコンファレンスにおいて開催された。午前は太田秀樹座長の下「在宅療養支援診療所への期待と課題」のパネルディスカッションが展開された。そして午後の最初に「在宅医療を推進する11団体の共同声明ならびに新加入団体の紹介」と題し、**新加入団体として全国在宅療養支援診療所連絡会・副会長の石垣泰則氏、本連絡会**

の原 龍馬代表世話人が登壇し、自団体の紹介を行った。お二人は日本在宅医学会幹事という旧知の仲であり、**降壇後に石垣氏から寄せられた**「先生、これから忙しくなりますよ」の一言には、温かいエールと期待が込められていた。そして総勢11団体による「在宅医療推進のための共同声明」が宣言された。

続いて、東京大学・辻 哲夫教授による基調講演と、それを受けて鈴木 央座長の下「高齢者の在宅医療～人生の終焉をどのように支えるか～」のシンポジウムが行われた。シンポジストは多職種で構成され、山梨県歯科医師会の花形哲夫氏からは、終末期歯科医療としての治療、リハビリ、ケアを通しての生活支援、QOL向上という新たな概念が、梶原診療所在宅サポートセンターの平原佐斗司氏からは認知症などの非がん患者の緩和ケアという新たな価値観も提示され、歯科関係者も多数参加した熱い1日が閉幕となった。

本連絡会、ネットワークの活動
8月初旬の設立準備会からメーリングリスト (ML: hdc_net@yahoo.co.jp) を利用しての情報交換、意見交換が盛んである。入会希望者は、上記MLまで、氏名、所属、自己紹介を記載し、お申し込みいただきたい。